



TITLE:

# 農学部農林経済司書室, 林学図書室 紹介

AUTHOR(S):

---

CITATION:

農学部農林経済司書室, 林学図書室紹介. 静脩 1971, 8(2): 6-6

ISSUE DATE:

1971-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36663>

RIGHT:

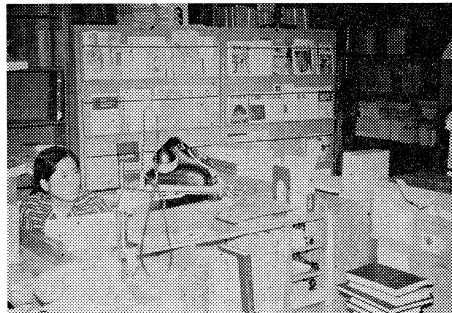


### 農学部 農林経済司書室

旧館の2階、玄関の上にあたるところに農経事務室と同居している。以前は見晴がよくて植物園や大文字山が見渡せたが、大学の過密化にともなってコンクリートの建物とマイカー族の駐車場と化した路面がみえるばかりとなってしまった。職員は4人。それぞれ和書・洋書・雑誌・資料を受持っている。男性がひとり加わって男手不足は解消された。司書室という名のごとく係員の詰書であって極く一部の図書が手近にあるのみである。教室開設以来50年近くの間蓄積された約10万冊の本が各所に散在している。研究室に収容しきれなくなった本は廊下にあふれ出し窓際に書架がズバリとならんでしまっただけで通風性もなく夏期には高温になやまされる。教室の部屋不足のために必要欠くべからざる閲覧室もない。また書庫として使用していた部屋が学生控室になったため約5万冊（昭和43年以前に購入した和洋書）を昭和45年に新館の学部書庫に移転した。いずれ学部に移管される予定であるが、目下のところ教室の管轄にある。このような事情で新館書庫に収容されている図書は1日2回（午前11時と午後3時半）に注文をまとめて出しに行くことになっている。利用者の皆様にはいろいろと不都合な点があると思うが御理解いただきたい。教室内にある図書は従来通り随時取扱っている。

今、職員の願望は各所に散在している図書を1カ所にまとめて収容できる書庫と閱

覧室がほしいということである。新館移転が可能になればすこしは明るい見通しもあるだろうと思いつつ猛暑とたたかっている。



### 林学図書室

農学部正面から右側に入って、中庭に南面した1階にあり、大正12年創設以来、農学部林学科の図書室として出発した。初めは、閲覧室と書庫の2室であったのが、昭和29年より閲覧室を教室事務に譲ってから1室、総面積60平方メートルの開架式閲覧の図書室で、蔵書冊数1万2,000冊、その内約半数に近い40%以上が農林省関係の各地試験場調査報告類である。報告類は、外国領土となった、北は樺太から南は台湾に至るまで揃っている。単行本は基礎的な図書と授業課目の教科書用として、複本を備付けて貸出を行なっている。現在、専門書はそれぞれの講座で所蔵しており、和洋雑誌類も必要に応じ講座でも所蔵している。職員1名のため、受入・整理業務に迫られて十分なサービス業務もできない。また、書庫は一杯になっているため、こんご増えてゆく資料をどうするか、など図書全般にわたって、将来、どのように図書業務を遂行してゆくか苦慮している。

あともがき：夏季休暇にはいってから、冷房中の400席の大閲覧室は連日満員です。それを見て2つのことが気になりました。1つは大学図書館の財政の貧困です。本館の閲覧机の傷み、椅子の傷みも気になりますが、予算不足のため十分な取り替えができないのです。また、図書館が快適な学習の施設といえるかどうか疑問です。2つには図書館のあり方です。休暇中に学外者の利用が多くなりますが、時折、市内の高校生・大学生で閲覧席の利用を希望する者が多いことです。現状では断っていますが、自校の図書館が夏季休暇で閉館しているため、開館している学校に集中することになります。休暇中の閉館について学校・大学図書館として、真剣に対策を考えねばならないと思います。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 8, No. 2 (通号41号) 1971年8月25日発行・編集発行人：岩嶺敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線) 2220-2238